

不活化インフルエンザワクチン

知っておくべきこと

2004～2005年度

1 予防接種が必要な理由とは？

インフルエンザ(「**流感**」)は重篤な病気です。

感染した人から他の人の鼻または喉に伝染する細菌が原因となります。

インフルエンザは以下の症状の原因となることがあります。

- ・発熱
- ・咽頭炎
- ・悪寒
- ・咳
- ・頭痛
- ・筋肉痛

誰でもインフルエンザにかかる可能性があります。2、3日間だけ病気になる人が大半ですが、悪化して入院が必要となる人もあります。米国内では毎年平均3万6千人がインフルエンザにより死亡し、その大半は高齢者です。

インフルエンザワクチンはインフルエンザを予防できます。

2 インフルエンザワクチン

現在2種類のインフルエンザワクチンがあります。注射で投与される不活化(死んだ)インフルエンザワクチンは何年もの間米国内で使用されてきました。生の弱毒化ワクチンは2003年に認可を受けました。これは鼻孔に噴霧します。

インフルエンザウイルスは頻繁に変わります。ですから毎年インフルエンザワクチンは更新されます。

接種後約2週間で発病阻止効果が出、最高1年間効果が持続します。

インフルエンザワクチンを接種してもインフルエンザにかかる人もいますが、接種しなかった人よりも症状が軽いのが普通です。

インフルエンザワクチンは、肺炎球菌ワクチンを含む、他のワクチンと同じ時に接種可能です。

不活化インフルエンザワクチンによっては、保存剤として水銀の一種であるチメロサルを含むものがあります。微量のチメロサルだけしか含まないものもあります。ワクチン内のチメロサルが有害であるという科学的な証拠はなく、ワクチンについて知られている利点の方がチメロサルによる潜在的危険性を上回っています。チメロサルまたはチメロサル減量インフルエンザワクチンに関する質問は、医師にお尋ねください。

3 予防接種の対象者とは？

重篤なインフルエンザまたはその合併症にかかる危険性のある月齢6ヶ月以上の人、およびそのような人と接触のある人(家族全員を含む)は接種を受けるべきです。

毎年の接種が推奨される人:

- ・月齢6～23ヶ月のすべての子供
- ・月齢0～23ヶ月の子供の家族および家族以外の世話人
- ・50歳以上の人
- ・慢性症状のある人が居住する長期医療施設の住人
- ・以下の疾患を持つ**長期的な健康上の問題のある人**:
 - 心臓疾患
 - 腎臓疾患
 - 肺疾患
 - 糖尿病などの代謝性疾患
 - 喘息
 - 貧血症、および他の血液疾患
- ・以下の理由により**免疫系の弱った人**:
 - HIV/AIDSまたは免疫系に影響する他の疾患
 - ステロイドなどの薬剤での長期治療
 - X線または薬剤でのがん治療
- ・長期アスピリン療法を受けている月齢6ヶ月から18歳の人(これらの人々はインフルエンザにかかるとライ症候群を発症する可能性があります。)
- ・インフルエンザの流行時期にある妊婦
- ・医師、看護婦、その家族、または重篤なインフルエンザの**危険のある人にじかに接触するその他の人**
- ・インフルエンザにかかる**可能性を削減したい人**

毎年の接種を検討すべき人:

- ・重要な地域奉仕の従事者
- ・4月から9月の間に南半球に**旅行する**、または1年の任意の時期に熱帯地域へ旅行したり、団体旅行をするインフルエンザ合併症発症の危険性が高い人
- ・大発生防止のため、寮または他の混雑した状態で生活する人

4 予防接種の接種時期とは？

最良の接種時期は10月または11月です。

一部の人は10月以前に接種してください。これに含まれる人:

- 50歳以上の人
- インフルエンザおよびその合併症発症危険性が高い若年者(月齢6~23ヶ月の子供を含む)
- 高い危険性のある人の家族
- 医療従事者
- 初めてインフルエンザ予防接種を受ける9歳未満の子供

流行時期は12月から3月の間にピークに達することがありますが、大半は2月にピークに達します。ですから12月またはそれ以降に接種すると、一年の大半において有益である可能性があります。

インフルエンザの予防に毎年1回だけの接種が必要な人が大半です。初めて接種する9歳未満の子供は2回接種が必要です。不活化ワクチンではこれらの接種は1ヶ月間隔で実施されます。前年で1回接種したこの年齢のグループに属する子供は、その接種を受けたのが初回であっても、今年には1回だけ接種が必要です。

5 予防接種の前に医師に相談の要がある人

以下の場合には接種前に医師にご相談ください。

- 1) 卵または以前のインフルエンザワクチン接種に重篤なアレルギー反応を生じた場合、または
- 2) ギラン・バレー症候群(GBS)の病歴のある場合。

接種予定時に発熱または重病の場合、回復するのを待ってから予防接種を受けてください。予防接種の予定を変更すべきかを医師または看護婦とご相談ください。

6 不活化インフルエンザワクチン予防接種に関するリスクとは？

あらゆる薬剤と同様に、ワクチンは激しいアレルギー反応など重篤な問題の原因となる恐れがあります。ワクチンが重篤な害または死亡の原因となる危険性は極めて低いです。

不活化インフルエンザワクチンによる重篤な問題は非常に稀です。不活化インフルエンザワクチン内のウイルスは殺されているため、ワクチンからインフルエンザにかかることはありません。

軽い症状:

- 接種部位の痛み、発赤、または腫れ
- 発熱
- 痛み

これらの症状は接種後直ちに始まり、1~2日続くことが普通です。

重度の症状:

- ワクチンによる致命的なアレルギー反応は非常に稀です。起こるとすれば、接種後2、3分から2、3時間の間に生じます。

- 1976年、豚インフルエンザワクチンは、ギラン・バレー症候群(Guillain - Barré Syndrome, GBS)と呼ばれる重度の麻痺症と関連付けられました。それ以来インフルエンザワクチンはGBSと明確に結び付けられていません。しかし、現在のインフルエンザワクチンによるGBSの危険性がある場合、その発症数は、接種で予防可能な重度のインフルエンザの危険性よりはるかに少ない、接種者百万人当たり1または2人と推定されています。

7 中程度から重度の反応があった場合はどうしますか？

気を付けることは？

- 高熱または普通でない様子など、平常でない状態に気を付けてください。重篤なアレルギー反応の徴候には、呼吸困難、声がれ、喘鳴、じんま疹、青ざめ、脱力感、動悸、またはめまいが含まれることがあります。

どの様に対応すれば良いのでしょうか？

- 医師に連絡するか、症状のある人を直ちに医師に連れて行ってください。
- 症状、発症した日時、予防接種を受けた日を医師に知らせてください。
- Vaccine Adverse Event Reporting System (VAERS: 予防接種有害事象報告システム)用紙を提出するよう医師、看護婦または保健所に要請してください。

ご自身でwww.vaers.orgのVAERSウェブサイトからこの報告を提出するか、1-800-822-7967 (米国内ファイルダイヤル)に電話してください。

VAERSは医療上の助言はいたしません。

8 もっと詳細を知りたいのですが？

- 医師か看護婦にお尋ねください。医師か看護婦から予防接種の添付説明書を受け取ったり、その他の情報源を入手できます。
 - 地元または州の保健所にお電話ください。
 - 以下のCenters for Disease Control and Prevention (CDC: 疾患管理予防センター)にご連絡ください。
 - 1-800-232-2522 (英語)
 - 1-800-232-0233 (スペイン語)
 - CDCウェブサイト
- www.cdc.gov/flu



DEPARTMENT OF HEALTH AND HUMAN SERVICES
CENTERS FOR DISEASE CONTROL AND PREVENTION
NATIONAL IMMUNIZATION PROGRAM

Vaccine Information Statement
Inactivated Influenza Vaccine IMM-569 - Japanese (5/24/04)
Translated by Transcend, Davis, CA
www.transcend.net